

知事と会長の子育て談義 ～若い家族を支える取り組み

6月10日大野元裕埼玉県知事と全埼玉私立幼稚園連合会松尾創会長が「知事と会長の子育て談義～若い家族を支える取り組み」をテーマに対談されました。

1 若い家族がかかえる問題

松尾： 埼玉県は人口は全国で5番目ですが、幼稚園・こども園の数は、東京、神奈川に次いで第3位となっています。これは、埼玉県が都心へのアクセスが良く、それでいて子育ての環境も良いことから園の数も増えたのだと思っています。しかしその一方で、いわゆる地域のコミュニティが希薄化しているという問題があります。最近、自分の住んでいるマンションで隣に住んでいる人の名前もわからないということが珍しくなっています。実家の両親も遠いところに住み、近隣の方からも親からもサポートを受けられない状況となっていますが、そうした中での埼玉県の取り組みや知事の子育ての体験について教えていただければと思います。

大野： 子育てに悩みや不安を感じているご家族は多いと思います。特に若い夫婦であればなおさらです。実際に埼玉県は核家族が多くいます。上の子の時は親元で子育てができたけれど、下の子は、仕事の都合などで親元を離れた子

育てとなり、親や親戚からの援助を受けられず、周りからのケアもなく孤立してしまう、という傾向が強いのではないかと思います。埼玉県は、核家族の割合が58.6%と全国第3位であり、周り「つながらない」、という大きな悩みを皆様が抱えているのではないかと思います。「孤育て」や「ワンオペ育児」を防止して、育児の負担軽減を図ることが必要だと思っています。そこで、令和5年度から市町村と連携して、お子様が生まれたご家庭に最大で1万円相当の「コパトンベビーギフト」を贈呈しています。これは、子育て世帯に1万円相当のご支援をするという訳ではなく、ギフトの配付を通じて、直接、行政のサービスをお伝えすること、すなわち市町村と子育て世帯が確実に「つながる」ことを目指しています。国においては行政サービスを子育て家庭に繋げるため、経済的支援と伴走型相談支援を一体で実施しており、県でも経済的支援と伴走型相談支援を実施する市町村に対して、財政支援を行う体制をとっております。松尾会長の私立幼稚園連合会さんでも、「幼児教育センター」という組織を設けて、そこに専門の相談員を配置して、日々多く寄せられる子育ての悩みの電話相談に丁寧に対応していただいております。県としても大変心強く思い、積極的に支援をさせていただいているところです。

子育ては、周りの支えがなければ苦痛になってしまうこともあります。私たち行政が、子育てを幸せに感じる環境づくりのお手伝いをしなければ、と思っています。

2 若い夫婦に伝えたい子育ての心得

大野：おとうさんが働いて、おかあさんは家にいて、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に暮らしているという時代とは、現代は状況が変わってきています。家庭内のサービス、たとえば食事を作るとか高齢者や子どもたちの世話をするといったことは、かつて女性の役割でした。それが今、両親ともに働いているとなると、家庭内のサービスは、外部から買い求めるか、あるいは、おとうさんとおかあさんが二人で協力するかのどちらかしかないと思っています。そうすると、家庭の中での男性の役割をきちんと見直さなければいけない、「育児や家事は女性」という既定概念を覆さなければいけないと思っています。そこで県では、男女ともに協力して子育てをする「子育て^{ともぞだ}」を推進するため、「共育て導きの書」という家事・育児のヒント集、ハンドブックを作りました。子どもが生まれたときの最初に読む1冊にしたいと思っています。また、多様な働き方を実践する企業を増やしていく、つまり子育てに協力できる従業員を育てる。あるいは、企業経営者向けのセミナーを行って男性が家事や子育てに積極的に参加できる環境を作ってもらう。そうした社会の変化を捉えて、貴重な子どもたちの未来をつくるためにどうするかということを真剣に考えております。

松尾：親といっても、皆、子育ては初心者。周りのみんなも労わらなければいけないし、「自分はダメな親」とひとりで悩まないで、周りに助けを求めてもいいと思います。子育てによって、子どもと親が共に育つ、そんな社会になってくれることを願っています。

大野：私もそう思います。実際に子どもを育てることが、何にも勝る一番の経験になると思います。

3 未来を支える子どもたちのための取り組み

松尾：子どもを預かる施設、幼稚園・認定こども園・保育園というのは、教職員みんなが笑顔で、困っているおかあさんたちを迎えたり、子どもたちを笑顔の中で迎えたりすることが責務だと思っています。その中で、大事なことは残していきたい。昭和、平成ぐらいまでは良いとされていたことも、時代に即してどんどん変わってきて、元気がなくなっている気がします。もっともっと、大野知事のもとで元氣な埼玉県になってもらいたいと思います。

大野：昨年10月の総務省の統計でも人口が増えたのは、東京都と埼玉県の2都県のみです。その中でも15歳から64歳の働く層が増えている。大学を卒業すると東京に行ってしまう方も多い。ところがその後、子育て世代になって戻ってきていただけるという方が埼玉県では他と比べると相対的に多いと思います。私立幼稚園は子どもを預かってくれるだけではなく、各園で培われた「建学の精神」を基に教育をしています。そうした園で、子どもたちは様々なことを体験できる。これは、子どもたちをどう育てていくか、という親のポリシーにも直結するし、子どもが私立幼稚園で学んだことは親の生き方にも影響を与えていると思います。加えて、幼稚園は親同士がつながれるという機能もある。人材を育てるという役割が幼稚園には期待されていると思います。みんなが楽しく関わって子どもが教育を受けて、親もそこから学ぶことができる。こうしたことのできる幼稚園が理想だと思います。

松尾：経験や知識と懐の深さが子どもに寄り添う者には常に必要だと思います。心のキャッチボールができるかどうかでその子の人生も大きく変わります。我々はこれからは家庭と連携して、未来を支える子どもたちの成長を支えていきたいと思っています。



Question

先日、子どもと外で遊んでいたのですが、真っ直ぐ走れなかったり、ボールを投げる時に足が動かなかったり、両足で踏み切ってジャンプできないなど、子どもの動き方に「ぎこちなさ」を感じました。「ぎこちなさ」を解消するためには、どうすればよいのでしょうか？



子育てフォーラム参加者のアンケートより取り上げてほしいとご要望のあった内容について、共栄大学 篠原俊明先生にお答えいただきました。

Answer

お子さんと体を動かしてたくさん遊んでください!!これが答えです。

どういうことかという、と、「ぎこちなさ」の正体は体を上手に動かせるようになる途中の姿です。体を上手に動かせるようになることを「洗練化」と言い、洗練化のためには様々な動きの経験(多様化)が大切とされています。そして、様々な動きの経験は、保護者の皆さんやお友達と楽しく遊ぶ中で経験していくことが重要です。トレーニングのようなことは望ましくありません。

このように書くと「体を動かす遊びなら屋外でしょ」と思われるかもしれませんが、もちろん、外で体を動かして遊ぶにこしたことはありません。でも、「家事も、仕事も、時間が。。。」「外に行くなら、あれを持って、これも持って。。。」「今日は、雨、日差しが強い、北風ピュー。。。」「と外遊びが難しい時がありますが、短時間でも、室内でも構いません。お子さんと一緒に体を動かして遊んでください。短時間で、室内でもできる遊びは検索すればすぐ見つかります。動きの「ぎこちなさ」の解消のためには、僅かな時間でも、場所に関わらず、お子さんと楽しく遊ぶことが何より大切なのです。

まなざし

初めてのラブレター

大袋幼稚園 関根 香澄

4歳の息子が幼稚園から帰るなり、目をキラキラさせて「ママ、ひらがな教えて」と言ってきました。え？どうしたの？ついこの前まで文字にまったく興味がなかったのに。

うれしそうに「Sちゃんからお手紙もらったんだ。明日お返事書いて持っていきたい」。見せてくれたお手紙にはYくんへというひらがなと、ハートの絵がたくさん描かれていました。

そうか、Sちゃんに母を超されたなと少しの残念さと、友だちの存在ってこんなに子どもの心を動かす力があるのだなと感心してしまいました。

こうやって子どもは幼稚園でいろいろな刺激を受けて成長していくのですね。あらためて幼稚園ってほんとうにすごい場所だなと感じたできごとでした。

誕生会でのひとこま

3歳児クラスでお誕生日の子たちに質問するコーナーがありました。

質問「好きなご飯は何ですか」

A君「カレーです」

Bちゃん「やきそばです」

Cくん「えーと。ささにしき。ひとめぼれ。それから、とねのめぐみ」

先生も知らなかった銘柄でした。令和の米騒動。3歳児にまで届いていました。



心温まる思いやりの成長

菖蒲幼稚園 古泉 久美子

ある寒い日のこと。5歳の男の子が体調を崩し、早退することになりました。具合の悪い中、静かに帰り支度をしていると、クラスの子どもたちが次々と彼の側に集まり、「だいじょうぶ？」「はやくよくなってね」「おだいじにね」と優しい言葉をかけていました。

4月初旬は、自分のことで精一杯だった子どもたち。しかし、この一年で友だちを思いやる気持ちが芽生え、自然と心配し、励ます姿に成長を感じました。

寒い季節に、子どもたちの温かな心が保育室に広がる、そんな素敵な瞬間でした。

これからも、子どもたちが互いを大切に思い合いながら、心豊かに成長していくことを願っています。

わが家の天使



お姉ちゃんの願い事

「みんなで動物園に行って、カエルに会いたいな」

暑い中でしたが、娘の願い事を叶えるべく、家族みんなで動物園に行きました。残念ながらカエルは見られませんでした。が、他の動物に大興奮でした！カエルはお家の近くで探してみようね！

親と子の健康

✦ 5歳児健診が始まります!! 子どもたちの発達をどのように評価しますか? ✦

医療法人自然堂峯小児科院長 埼玉県小児保健協会会長 峯 真人

我々小児科医が子どもたちの成長や発達を評価する場面として大変重要なのは、定期的に行われる乳幼児健診です。

我が国ではすべての自治体で母子保健法による公的健診として実施されているのは、1歳6か月健診、3歳児健診のみでした。しかし自治体独自の公的健診として4か月健診や10か月健診などは多くの自治体で行われています。

さらにこども家庭庁の指示のもと、この1～2年の間に1か月健診と5歳児健診が公的健診として全国で開始されようとしています。

ここでは5歳児健診について触れてみたいと思います。

◎なぜ5歳児健診をするのですか？

「5歳児」つまり年中さんや年長さんは、言語の理解能力や社会性が高まり、いわゆる発達障害などの特性を持つ子どもたちが認知され始める時期です。この時期における保健、医療、福祉による対応の差などにより、子どもたちのその後の成長・発達に種々の影響が出てきます。

この時期に健康診査を行い、このような子どもたちを早期に発見し、特性に合わせた適切な支援を行うとともに、生活習慣、その他育児に関する指導などを行い、幼児の健康の保持及び増進を図ることが5歳児健診の最大の目的です。

◎5歳児健診ではどんなところを見るのですか？

5歳児健診で行う項目は、以下の6つがあります。

- 1) 身体発育状況
- 2) 栄養状態
- 3) 精神発達の状況
- 4) 言語障害の有無
- 5) 育児上問題となる事項の確認（生活習慣の自立、社会性の発達、しつけ、食事、事故等）
- 6) その他の疾病及び異常の有無

5歳児健診の重要な部分は、個人の成長や発達を診察するだけでなく、集団におけ

る立ち振る舞いを評価して、社会的な発達の状況を把握することにあります。これは発達障害等のスクリーニングにつながるだけでなく、遊びや人間関係の豊かさ、子どもと家族の地域社会とのつながりなど健康の社会的決定要因を把握することにもつながります。

◎社会性の発達の問題とは具体的にどんな様子のこどもですか？

- ・言葉の遅れ、発音や構音の障害がある
- ・コミュニケーションがうまくとれない
- ・みんなと遊べない、すぐに泣く
- ・視線を合わせようとしない
- ・落ち着きが無く動いてばかりいる
- ・乱暴・友達といさかきを起しやすい
- ・極端におとなしい、動きがゆっくり
- ・非常にわがまま、自分勝手
- ・すぐに反抗する、おとなびている

このような特徴を持っている子どもたちは少なくないと思います。このような特徴が良いか悪いかではなく、子ども自身や保護者、その他幼稚園・保育園の養育者などの困り感につながっていないかが、問題といえます。

◎5歳児健診の意義とはなんですか？

5歳児健診の重要なポイントとして、「精神発達の状況」「言語障害の有無」「社会性の発達」などの把握が挙げられます。重篤な先天性の身体的疾患の多くは3歳児健診までに指摘されていると考えられます。一方、5歳児健診では集団生活を営む上で必要な社会性の発達や自己統制などの行動面の発達を評価することが重要となります。

こうした発達の評価により指摘されうる疾患としては、主に以下のようなものが挙げられます。

- 1) 注意欠如多動症
- 2) 自閉スペクトラム症
- 3) 知的発達症（軽度～境界域）
- 4) 場面緘黙症
- 5) 吃音
- 6) 機能性構音障害

限局性学習症（学習障害）は就学後に

ならないと診断は困難です。

5歳児健診を受診することで、集団生活を送る上で求められる社会性や調和的な行動を確認し、もし何らかの所見を認める場合や保護者に心配がある場合には、専門相談などを活用することが可能です。また必要に応じてその後の医療、福祉、教育などのフォローアップにつなげることで、課題となっている行動の改善につながることや、環境を調整することで社会生活への適応がスムーズになることが期待できます。

その他、身体発育として肥満や痩せの問題、睡眠覚醒リズム、食事と排泄の習慣など基本的生活習慣が安定していることの確認も重要となります。現代的な課題として、メディアとの付き合い方にも留意すべきでしょう。

5歳児健診は、これら基本的生活習慣を身につけるための保健指導を行う上でも重要な機会の一つになります。

◎幼稚園や保育園として気を付けることはありますか？

今迄触れてきました5歳児健診の目的や意義について、最も幅広く把握出来る立場にあるのが幼稚園や保育園のスタッフの方たちではないでしょうか？特に集団での子どもたちの特徴は保護者の方では十分に認識することができません。

子どもたちは沢山の素晴らしい能力を持っていますし、個々でそれぞれ違った特性を持っています。これらの良いところをさらに伸ばしていくためには、その特徴を就学の前にある程度見極めておくことは入学後の子どもたちや保護者の方々の混乱を減らすためにとても重要です。

スタッフの皆様には5歳児健診を幼児期から学童期への切れ目のない支援の場としてとらえていただき、保健センターなどと上手に連携していただくことが大切です。

参考資料 5歳児健診マニュアル
研究分担者：小枝達也 小倉加恵子
研究協力者：是松聖悟

親子や祖父母と孫のほほえましいエピソードや写真、お読みになった感想も募集しています。写真は一緒に映っている方全員に許可を得てからお送りください。応募者多数の場合は、すぐにご紹介できない場合もございますので、ご了承ください。応募は、こちらから➡



CoCoネーミングのおもい

『CoCo』は「ここから始まる」「心と心がつながる」そんな思いをこめてネーミングしました。子育てで大切にしたいことは何ですか。輝く未来に向かって。

